

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月12日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870105354		
法人名	松山医療生活協同組合		
事業所名	グループホームなないろ		
所在地	松山市立花5丁目1-53 (電話) 089-915-7727		
管理者	平野 小百合		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	5月24日	評価確定日	7月9日

【情報提供票より】 (19年4月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	4人, 非常勤 8人, 常勤換算10.4人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (3) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	94歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定(あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり・(なし)	短期利用型共同生活介護
加算(あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は医療・介護事業「施設介護(デイサービス・グループホーム)や在宅介護(居宅介護支援事業・訪問看護・訪問介護)」の他、レクリエーション活動・医学講座・保健大学・ボランティア会等、地域の要求に基づく「心とからだの健康づくり」「明るく住みよいまちづくり」活動を進めている。ホームの運営理念も同様の考えであり、利用者一人ひとり表情の穏やかさ、笑い声の絶えない共用空間は、まさに理念に沿った介護が行われている結果と考えられる。

### 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価は開設後6か月と歴史が浅く、管理者は利用者への直接的な介護のあり方・方法及び職員教育に重点をおく傾向があったが、運営が軌道に乗り始めた現在、課題であった「地域に密着したホームづくり」に軸足を置き、利用者との付き合いが日常的になるよう努力している。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員一人ひとり全項目を自己評価し、全員で確認した。職員は、自己評価することによってホームに求められるサービスの質の問題と日頃管理者が指導する内容、意味するところが十分理解できた。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は2か月に1回開催している。市職員、地域包括支援センター職員、民生委員等、10名弱で構成しているが、その中に必ず利用者代表・家族代表が入り、内容も利用者の意見を中心にまとめ、生きがいを大切にするホーム運営につなげる取り組みになっている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	重要事項説明書に相談窓口が明示しており、ホーム玄関には意見箱が用意されているが、現在まで意見箱に苦情が入った事はない。また意見が出しやすいようにと家族会の結成も提案している。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	利用者と地域住民の付き合いが日常的になるよう、さまざまな工夫をしている。外出時にカメラを持参するのもその一つで、なじみの人と写真を交換したりする。また管理者は災害時、近隣の絶大なる援助があると確信している。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名 平野小百合

評価完了日 平成19年 6月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所の母体が医療生活共同組合で、古くから地域組合員の支えで運営されていた。組合員・地域住民の要請にて開設になった経緯がある。 (外部評価) 開設時に全職員で議論してつくっている。母体法人として地域と密着して運営してきた実績があり、理念の中にも「地域の方々と交流を持ちながら」と表現されている		利用者のほとんどが、元々の地域住民であり、慣れ親しんだ環境での生活が継続出来ている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) グループホームの理念は開設時に、職員間で話し合い、掲げた。現在も、ミーティングの時に理念について話し合い確認するようにしている。 (外部評価) 毎月1回実施しているミーティング時に、今のケアに問題はないか、理念に沿っているか話し合い、さらによりケアにつなげる努力をしている。		新職員については管理者から説明を行って、納得を得てから就業してもらっている。今後も、随時、職員間での理解を深め、良いケアに繋げて行きたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者のほとんどが、近くに自宅があった方が多いので、散歩の途中で顔見知りにあう事も多く、昔話に花が咲く事もある。		グループホームでは季節の行事(夕涼み会・夏祭り・音楽コンサート・敬老会など)を行ない、地域の方々にも、お知らせし、随時参加して頂いている。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 開設当初から隣人が支えて下さり。家庭菜園で出来た野菜を差し入れて下さったり。施設の庭木に水をまいてくださる等の支援をして下さる。		グループホームからも、生ゴミ処理機で出来た土を持って行ったり、お寿司を作った時の差し入れたり交流も盛んである。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) いろいろな世代の方々との交流を目指し、地方祭のときは、みこしの休憩場所にもなったり、保育園の園児に訪問してもらったりしている。 (外部評価) 利用者と地域住民のつきあいを日常的なものにしたいと考えている。外出時、近所の人と写真を撮って交換したり、ホーム主催の行事に地域の人達を案内したり、民生委員の協力により地域行事にも参加できている。		今後も積極的に、地域の方々との交流を深めていく為に、民政委員さんとこまめに連絡をとりあって地域活動に参加して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の方を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方より、介護や入所の相談を受けた時は、地域包括支援センターをご紹介したり、他のグループホームと連携をとり、対応する事を心掛けている。		以前より、介護に悩んでいる方の為に、職員で介護教室が出来ればとグループホームの掲示板にお知らせを載せているが、今のところ希望の方が居ないので開催できていない。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価および外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価は、グループホーム内で閲覧できるようにしている。どのような評価を得たか内容についても簡単に利用者の家族の方に管理者から説明させてもらった。 (外部評価) 職員一人ひとりが全項目を自己評価し、全員で確認した。「自己評価することでホームに求められている質や管理者からの指導の意味するところが理解できた」と職員は話している。前年から1年の間、よりよい介護を求めて全職員で努力した。		職員間でも、自分たちのケアがどの様に評価されたか確認しあい今後の介護に生かせるようミーティングで話あっている。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では利用者の意見を、最も重要と捉え、出来るだけ、利用者にとりやすくして意見を言って頂き、話合っていく様な形式で会を進行しています。 (外部評価) 2か月に1回開催している運営推進会議は利用者を中心に運営し、一人ひとりの利用者の声を大切にしている。その声は具体的な年間生活目標（墓参りのために歩行訓練をする、礼状の葉書が書けるように字の練習をする等）としてケアプランに活かされている。		なないろでの運営推進会議ありかたとしては、今後も利用者の方の意見を最も重視して、運営を続けて行きたいと思う。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市サービス事業者実務担当者連絡会に参加するよう心掛けたり、必要時は電話連絡等で対応してもらっている。 (外部評価) 実務担当者連絡会に出席するほか、電話での報告・相談は日常的に行っている。また、今年度は市職員の研修を受け入れる計画も立てている。		市職員の介護で研修が必須であれば、利用してもらうように伝えている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修があれば、管理者・介護職員が研修を、なるべく受けるように努力しており、研修で得た成果は、ミーティング時に報告し情報を共有するようになっている。		現在のところ、成年後見人制度を利用されている方は、居らしやらないが、必要時には適切な対応が出来るように支援して行きたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待の研修があれば、出来るだけ参加を心掛けている。グループホームはいつでも面会の方が入れるような対応をとっている。開放的な雰囲気や常に配慮している。		職員間で十分に、知識がいきわたるように、ミーティング時勉強する機会を持っている。職員の意識付けとして、虐待を見逃すことも虐待であると説明している。意見を言いやすい環境を作る努力をし続けたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、利用者・家族・管理者で十分に時間をとって説明できるように工夫している。グループホームで支援できる内容、家族に支援して頂く内容を、具体的な例を挙げ説明している。		医療連携体制についても詳しく説明し、入所時の家族の意向を確認書を利用し、詳しく説明する。この確認書は入所時のもので、意向が変更すれば随時対応できる事を説明している。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に利用者に参加して貰ったり、食事後の団欒の時に、利用者の意見を確認するなどの工夫をしている。		職員も利用者のニーズを把握し易いように、利用者による、自治会的なものが出来ればと思っている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族面会時に、近況を職員がお伝えするようにしている。毎月小遣い帳を明示して報告をしている。 <hr/> (外部評価) 請求書送付時や面会時、小遣い帳や受診時状況報告書、ミニアルバム帳(写真)で報告するとともに、母体から定期的に発行する新聞を利用して報告している。なお、ホーム玄関には一人ひとりの家族への連絡箱が用意されており、必要な情報が入っている。		利用者個々のミニアルバムを作り、ご家族にお渡ししたり、玄関のにグループホームでの最近の様子が判る写真を展示し、内容も頻回に変更している。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から、家族に気軽に意見を出していただけるような機会を作るよう努力している。グループホーム玄関などに意見箱を設置して相談窓口を明示している。意見箱に苦情が入った事は無い。 <hr/> (外部評価) 重要事項説明書に相談窓口が明示しており、意見箱も用意している。玄関には苦情相談に関する説明書、用紙、筆記用具も置いている。意見が出やすいようにと、家族会の結成も検討している。		ご家族の意見が反映されるように、管理者から家族会の設置をよびかけたが、皆さんお忙しいと成立はしなかった。今後も、働きかけて行きたい。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングを持ち、意見交換を行うようにしている。また、日頃より意見・要望を聞くように心掛けている。		業務内容に関しては、変更内容をノートなどに記載して分かり易くする。急ぐ内容は、管理者がそれぞれに伝達するようにしている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 平日は、日勤が3人早出が1人、遅出が1人、5人体勢で対応している。利用者個々のニーズに合わせる対応が出来るよう配慮している。季節行事の時は、職員も増員し利用者のペースに合わせた対応が出来るように工夫している。		夜間に急変があった時などは、サポート出来るように職員間で連携をとっている。重症な症状がでて、管理者が必要と判断した場合は、二人の夜勤者で対応している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 開設以来、職員の移動はほとんど無い。新職員が勤務する場合も、勤務に就く前にオリエンテーションを行ない。利用者の落ち着きが見られるまで、顔なじみの職員を新職員のサポートで配置している。 (外部評価) 母体法人はさまざまな事業を運営しているため施設間の異動はありうるが、管理者は利用者とのなじみの関係を大切にしたいと考え、ホームでの異動は行わないよう法人代表に話している。また、退職者は極めて少ない。		顔なじみということでは、管理者は、利用者が居家で生活をしてきたとき居宅介護支援事業所の担当がマネージャーであった方が多く、自宅の様子や家族構成、趣味、生活習慣等を理解している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員の希望に添い、業務として研修を受けられるようにサポートしている。研修後は報告書を記載したり、講習の内容をミーティングの時に発表している。 (外部評価) 非常勤職員を含めて、施設内・外の研修参加は業務扱いになっており、報告書の提出・ミーティング時の発表が義務付けられている。資格取得研修についても必要な経費は母体からの援助がある。		関連事業所での研修会にも参加するようにし、興味の有る研修内容は管理者から職員に紹介したり参考書を取り寄せたりしている。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入、研修に参加したりしている。研修として交流の有るグループホームで実習させて頂いたり、見学に行かせて頂いたりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入し、研修会・連絡会に参加している。事業所間で友人もでき、相互に訪問して研修も行っている。		交流の有るグループホーム管理者が時折来所してくれ情報や意見の交換をおこなっている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 介護職の基本として穏やかな精神状態を保てるよう勤務希望を出来るだけ叶えるように配慮している。職員間の連携がとり易い様に、管理者が連絡調整を行うようにしている。		明確な休憩時間は確保できていない。職員専用の休憩所は確保出来てない。専用のトイレはある。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者より資格取得の研修があれば紹介している。資格取得にかかる費用についても個人の負担が少なくなるように運営者からの援助がある。		常勤・非常勤に就業規則あり、介護休業・育児休業 定年後の再雇用についても規則あり。給与についても資格取得すれば俸給表にあわせて昇給する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者家族からの相談があれば施設を見学して頂き介護の内容を説明させて頂いています。入所待ちの登録をされた方についてはご家族の方から時折お電話を頂くようお願いしている。気になる事があれば相談記録に記入している。		現在入所待ちをされている方が多く、緊急の対応が必要な場合は、居宅介護支援事業所との連携をとり速やかな対応が出来るように支援しております。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があり、家族の介護負担が大きく、管理者が必要と感じた時は、ご本人お会いして具体的に相談おうじている。		入所時は居宅を訪問しどんな環境で生活されていたか把握するように努めている。入所前には、フェイスシートを作成し職員間で情報を共有するよう心掛けている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前相談で現在の生活状況を把握するように努めている。ご家族の方が、環境に慣れたいとのご希望があれば関連のデイサービスなどをご紹介している。		必用ならば、受け持ちの介護支援専門員に連絡をとり、連携をとって行きたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用がグループホームでの生活を、体験して頂けるように、利用が近くなった時点で、半日程度ごして頂く時間を持つようにしている。 (外部評価) 利用者の安心と納得を大切にされた支援をするために、入居前の訪問を大切にし、フェイスシートから全職員が理解するよう努めている。入居予定者は体験入居や、母体が運営するデイサービスを利用して入居に至る等、工夫している。		ご家族も利用前に希望があれば、グループホームでゆったりと過ごして頂くようにしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の皆さんに、日頃から体験談をお話して頂いたり、お若い頃気に入られていた事等をお伺いする機会を多く持つように工夫している。 (外部評価) 職員は利用者と一緒に過ごし、学び支えあう関係を大切にしたいと考えており、体験談や今の思いを聞くよう努めている。ホーム内は絶えず笑い声に包まれている。		介護職員の姿勢として、利用者の側に寄り添い出来ないところを支援していく事の大切さを確認し合っている。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 機会があれば、ご家族より、利用者の自宅での暮らしぶりをお伺いし、その方らしい生活が送れるような支援が出来ているか確認するようにしている。		日頃の様子が判り易いように、個々のミニアルバムを作成し、ご家族の方に見て頂けるように工夫している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族が、遠方に居られる方は、電話で様子をお話したり、お葉書を出したりしている。家族の、都合がつく場合は外泊は支援を行っている。		電話や葉書は、定期的なものではないので、今後は機会を増やしていきたい。外泊時には、グループホームでの日頃の様子を説明し、利用者・家族が戸惑う事の少ないように工夫している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域に暮らす友人が頻回に、面会に来てもらっている。面会の方には、ゆっくり過ごして頂けるような雰囲気を作るよう工夫している。		年賀状や葉書が出し易いように、宛名書きを葉書にしておいたり、電話がかけ易いようリビングに電話機を設置している。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事やお茶は、職員も一緒に、共通の話題を話したり、利用者の経験談などを話して頂き、楽しい時間が過ごせるよう演出している。		利用者同士での会話が楽しくなるような、話題を提供したり、外出したりし、お互いの理解が深まるような支援を続けたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院の為、利用されてない方の介護保険の申請のお手伝いをしたり、家族に電話をかけて、経過を確認したりしている。又、利用者の希望があれば、一緒にお見舞いに行ったりしている。		入院中の利用者に時折お見舞いに行ったり、誕生日には、職員が書いた色紙や小さな花束を持って行ったりしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中や家族面会時に意向などを確認するようにしている。ミーティングの時に支援の方向性を職員と話あっている。 (外部評価) 利用者の日常会話の中から思いや希望を把握している。日本舞踊や生け花、ビーズ編み、風船ゲーム等を提供し、その反応から利用者の好みを把握する。気づきは連絡ノートに記録し、全員が把握できるシステムになっている。利用者の表情は穏やかである。	※	年間のスケジュールを組み、個々の希望をかなえる、支援をしている。幼い頃を過ごした場所に行く、故郷への墓参り、親族の争議に参列するなどの支援を行ったり、いろいろ計画している。  気づきは連絡ノートに記録し、ケアプラン作成時の大切な情報ともなっているが、この気づきノートを数年保存の対象にする等について検討される事を期待したい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用時に訪問して、自宅での様子をお伺いしたり、グループホームに持ってこられる荷物の相談をしたり、在宅でサービスを担当していた、訪問介護員、訪問看護師にアドバイスをもらっている。		開設時に入所された方は、在宅の時に管理者が居宅の担当ケアマネジャーだった方が多かったが、それ以降入所される場合は、なるべく、自宅訪問を行っている。入所前から職員と顔見知りになれるよう来所して貰った方もいる。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入所時に、家での生活の様子は、伺い、それに近い環境を整えるように配慮はしているが、慣れない環境の為、家で出来ていたことが出来なかつたりする。入所時に説明を丁寧に行うよう心掛けている。		起床時間、就寝時間は決めてないが、グループホームでの生活のリズムを大切にして行く環境を整えるよう努力している。「お茶を皆さんと一緒に飲みませんか？」等、決め付けしないで、自ら参加している気持ちを大切に支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、3ヶ月に1回できれば、利用者・家族・管理者・介護職員で相談しながら、計画を見直すようにしている。 (外部評価) 利用者を理解したい気持ちが強くあり、職員同士で連携を取り、情報共有している。家族の要望や職員の気付きノートから利用者一人ひとりの生活全般がわかる様なアセスメントをし、介護計画ができています。	※	生活全般の支援の内容がわかるようなものを使っているが、利用者の意欲が出るように個別性を重視した目標が立案できるよう検討中である。  管理者はより個別性を重視した、利用者の意欲を引き出せるような介護計画でありたいと考えているので、更なる工夫を期待したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状況の変化に計画が、追いつかない時があり、月1回のミーティングで、ケアの内容は変更し、対応を統一するよう心掛けているが、書類が追いついていない。 (外部評価) 月1回のミーティングで「介護計画→実行→モニタリング→継続」を行っている。3か月に1回は、利用者・家族・職員・管理者で話し合い、見直している。	※	毎日記入する介護記録に、介護計画に照らし合わせた記録が出来るように充実して行きたい。  管理者は、毎日の個人介護記録が介護計画を実施してどうだったか、介護計画をより反映したものであるか等考えているため、更なる努力を期待したい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々に変化については、申し送りを充実し、職員が情報を共有出来る様に工夫している。		個別の排泄記録・血圧チェック表を毎日記載している。(バイタルサイン・体重・食事摂取量・服薬確認・入浴・シーツ交換などが確認できるようにしている)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診に関する支援を行っている。グループホームに入所されてから、白内障の治療を開始されたり、今まで調子の悪かった歯の治療を受ける方が多い。 (外部評価) 母体はさまざまな事業を展開しており、ホームはどの事業所からも応援を受けられる体制にある。特にデイサービスの職員を含め、他施設の専門職の支援には、全職員が感謝している。		白内障等で手術が必要な方には、入院時に病棟看護師に申し送りを書面にして渡したり、落ち着くまで側に居るようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民政委員さんは開設前から協力していただいております。運営推進会議にも積極的に参加していただいております。ボランティアも徐々に増え、継続して訪問をして頂いている。		幅広い年代との交流を考えており、保育園からの訪問してもらっている。今後は、1階にあるデイサービスと協力し暮る君の家の申請を検討している。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 居宅に居た頃の担当マネージャーに、運営推進会議に参加してもらっている。利用者や家族も連携が取れていると評価して下さっている。		町内会から赤飯を頂いたり、訪問美容室の利用をして地域との交流を図るようにしている。地域で住んでいる介護を勉強している学生もボランティアに参加してくれている。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらっている。		成年後見人制度が必要と思われる利用者は今のところ居ないと思われるが、必要時は、連携をとり対応して行きたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ほとんどの利用者が持病を持っているため定期的な診察が必要なため、協力病院より、毎週往診に来て貰い、月に2回は診察を受けて頂いている。体調の悪い時は、随時対応してもらっている。  (外部評価) 利用者9人のうち6人は、もともと協力病院をかかりつけ医としており、残りの3人は従来のかかりつけ医を継続している。協力病院から週1回往診があるが、その他必要時にはいつでも相談できる体制がある。		風邪などで体調の悪い時は、家族と相談し、訪問看護を利用したり病状が早く回復・入院が回避できるように、努力している。協力病院にとらわれず、必用があれば、馴染みの医師に受診したり、専門的な診察が必要な場合には、協力医から紹介状を出して貰い連携がとれるよう支援している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 日頃、かかりつけの内科医に相談している。医師や・介護職員が専門医の診断が必要と思った場合は認知症外来のある総合病院に受診介助している。	※	認知症専門医とは、必要と思った時のみ相談に行っているが、利用者や家族の意向を確認して対応していく必要性を感じている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 管理者が看護師。健康管理や医療面での相談・助言を行っている。協力病院も24時間体制で、連携がとれるよう支援してくれている。		日頃から、既往歴を明示した書類や、内服薬の用法用量がわかるように書類を整備したり、救急時の対応をマニュアル化したり、法人内で研修を行ったりしている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院を余儀なくされた利用者には、入院している病院の病棟師長や医療連携室と連絡をとりあっている。		必要時には、介護保険の更新手続きが必要な場合などは支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所前には、重度化に伴う意志確認書を、利用者・家族に確認し作成している。グループホームで出来る対応を説明して納得を得るようにしている。意志は随時変更でき、気持ちに添える支援になるよう心掛けている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」「医療連携確認書」、職員マニュアルがあり、入居前に本人・家族とも話し合っている。本人・家族の希望により、現在までに1例の看取りを経験した。		終末期に対する利用者・家族の気持ちは揺れ動き易い事を踏まえ、医師や訪問看護師の協力を得て納得のいく対応が行なえるよう配慮している。職員間でもマニュアルを作成している。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看取りは一人行ったが、利用者・家族の気持ちにそった、尊厳のある看取りが出来たと思っている。現在のところ、重篤化している利用者は居ないが、ニーズに添った多様な支援をおこなって行きたい。		利用者が重度化した場合は、協力医療機関と連携し夜間・休日でも往診・死亡確認が出来る体制ある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所に移られたり、自宅での生活を再開された方はまだいらしゃらないが、これまでの生活が継続できるように情報を提供して行きたい。外泊時も家族に現状や介護のポイントを説明している。		緊急時にも備えて、日頃から介護覚書を準備して様子がすぐに判るように気を付けている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員の意識付けは出来ている。外出や病院受診の時なども目立たずさりげない対応が出来るように心がけている。 (外部評価) 職員の言葉かけや対応に誇りやプライバシーを損ねる状況は見られなかった。書類の廃棄はシュレッダーを使っている。	※	記録に関しては厳重に管理して、廃棄するものはシュレッダーを利用している。  プライバシーを損ねる事が無いよう、細やかに配慮されているが、面会簿の取扱いにバランスを欠くと感じた。検討する事が望まれる。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 職員間で情報を交換し、希望・関心・嗜好を把握するよう心掛けている。食事の時などにそれぞれに意見が言えるような雰囲気を出したり、積極的に声を掛けたりするようにしている。		利用者の入れ替わりが少ないので、職員間でも細かな趣味・嗜好品等を把握出来ている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それぞれの規則的な生活リズムが整うように配慮している。グループホームでの主な時間の流れがあるが、体調の悪い時などは無理強いせず、柔軟な対応を心掛けている。 (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の生活の大きな流れは決まっている。「趣味は特にない」と答える利用者が多いので、生活歴等を参考に様々なプログラムを用意し、参加を促している。表情から、好き・嫌い、できる・できないを読み取り、その人らしい暮らしができるよう支援している。		趣味といっても「特に無い」と言われる方が多いので、生活リハビリは多様な内容にして（生花・ビーズ作り・塗り絵・フーセンゲーム・カードゲームなど）利用者の積極性をみて個々にあわせて行うようにしている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 毎朝、ご本人に確認しながら、着替えて頂くようにしている。洋服と一緒に買いに行ったりもしている。以前はなじみの理髪店に通ったりしていたが、訪問理容を利用し始めたら、皆さんが利用をはじめてしまった。		着物が大好きな利用者が毎日、着物を着ておられたが、最近暑くなってきたので、洋服に着替えられるようになった。希望時は引き続き支援したい。自分でお化粧をされている方もおり眉が書きにくい時など手伝うようにしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 管理栄養士が基本献立を立ててくれるが、利用者のリクエストに答えて献立も変更している。料理の下ごしらえや片付けもそれぞれの役割が出てきている。利用者・職員が同じテーブルを囲んで食事するようにして、いろいろな話題を話し合う。 (外部評価) 買い物→調理→後片付け等、一連のプロセスを一緒に行い、それぞれ得意分野の役割もできている。全員で食卓を囲み、楽しみながら職員の適切な声かけで全量摂取につながっている。		近所からの野菜の差し入れを調理したり、季節行事を大切にしたい利用者に教えてもらいながら、献立を建てる事多い。治療食・介護食にも力をいれ、管理栄養士のアドバイスを受けながら食事を楽しんでいる。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒は、希望者には夕食時にお出ししたり、行事の時は用意している。煙草は、ベランダで喫煙してもらうようにしている。煙草は本人の管理、マッチは職員が管理している。		喫煙時間は21時から翌朝6時までは禁煙とさせて頂いている。夜間の喫煙は今のところ希望は無いが今後希望があれば検討をしていきたい。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 尿意が訴えられない方も、排泄時間を把握しトイレに誘導する事で、失禁の回数は減っている。		利用者の排泄への方法・気をつけること等をマニュアル化している。トイレは常に換気し清潔を保つように配慮している。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の予定は決めているが、希望があったり、汚染があった時などは、臨機応変に対応している。個人浴で週に3回は入浴できるような体勢を整えている。 (外部評価) 見守りや介助をしながら、週3回以上の入浴を基本としている。外出前・受診前・美容院利用時等は入浴希望者が多く、職員を増員して対応している。		今の所、夜間に入浴したいという希望は、今のところ無いと思っているが、希望があれば対応していきたいと思っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の疲れ具合などを把握し、表情が疲れている・足の浮腫みが酷くなっている等、必要な場合は安静を保てる支援を心掛けている。		ほとんどの利用者は、向精神薬・安定剤・睡眠薬などの処方を受けていないが、不眠・徘徊などの症状がない。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 今までの趣味を大事にし、日本舞踊の好きな方が多いので、職員が講師となり日舞を練習したり、家族に手紙を書きたいという方に字の練習を試みたり、それぞれの生きがいを考え、意欲の出るような支援を考え対応して (外部評価) 利用者の多くはホーム近隣で生活していた人たちで、利用者の生活情報等を把握しやすいため、利用者の入居前情報は多く持ち、その人らしい生活の支援に役立っている。利用者の声や希望はケアプランの柱とし、実現できるよう援助している。		職員間でも生きがいへの支援と考えるミーティング時に検討を重ねている。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人に小銭に対する理解がある場合は自己管理していただいている。職員が管理する方が安心する方は職員がお預かりしているが、基本的に、ご本人と家族の同意を得ながら対応している。毎月、家族には小遣いの出納を書面にしてお渡ししている。		必要があれば、一緒に銀行や郵便局などにも外出し、出来るという安心感を持って貰える様支援している。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、外出にお誘いし、希望の方は一緒に散歩するようにしている。月1回は、出来るだけ全員で外出できるレクを提案している。 (外部評価) 日常的な散歩や外出の機会は確保している。月1回は弁当持参で遠出したり、外食に出かけたりする。ホームから出れば利用者は顔なじみが多く、声をかけ合い、写真を撮り合ったりする。		毎月、趣向を凝らし、お弁当を作り花見をしたり、電車に乗って華道展を見に行ったり、利用者のリクエストに答える様に工夫している。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している	(自己評価) 仲の良い利用者と少人数で外出したりしている。年間計画し、田舎に帰ったり、墓参りに行ったり、道後温泉に行ったりする計画を立てている。		まだ、数例しか実行出来てないので、今後、積極的に実現して行きたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 電話はリビングの真ん中に置き、誰でも電話できるようにしている。手紙も希望者には出したい方の宛名を記入してお渡ししている。		数年間も連絡をとってない、兄弟と電話が出来るように支援したり、手紙がかけない状態の方には、誕生日に最近の顔写真入りの葉書をお送りしたりしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 近隣の方が多く、散歩の途中で立ち寄られたり、仕事帰りにたちよられる方も多い。職員が近況をお話したり、会話に加わったりする場合も多い。		1階にデイサービスがあり、顔なじみの利用者が多く交流が見られる。
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) あたり前ではあるが、拘束はした事無い。以前、不穏になり、目が離せない利用者には夜勤を二人体勢にするなど、拘束をしない取り組みを行っている。		拘束に対する同意書など整備はしているが、今後も拘束のないケアを実践し続けたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の玄関には、夜間施錠するが、グループホームの玄関には施錠しない。職員の連携をとり、利用者がひとりで外出して怪我をしないように配慮している。  (外部評価) 施設の玄関は1階デイサービスと共用で、ホーム専用の2階玄関は日中施錠しておらず、職員の気配りで対応している。		グループホームで施錠したことは、利用者の不穏時に、年間通じて数回、数分程度である。不穏も、適切な対応で、暫くすると落ち着かれる。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 業務の分担を明確化して、利用者の動向に、目が行き届くように配慮している。利用者から見て、職員が必ず見守っている様な安心感が得られるように配慮している。		施設の構造上、利用者の位置が把握し易いようになっている。しかし、安心せず、気持ちを引き締め対応し続けたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個々の利用者の状態を把握し、事故を未然に防ぐように心掛けている。		マッチは、利用者とは相談して職員が管理。鉄などを出さなければならぬ努力をしている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から、ヒヤリハットを作成し、事故を未然に防ぐ工夫をしている。ヒヤリハットが提出された場合は、職員間で対策を検討している。		同法人内で危機管理委員会設置している。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 平日は、看護師が配置されている。介護職員間では、マニュアルや本を揃えてはいるが実際に急変したら不安と言う声がある。現在のところ、利用者が急変した事は無いが定期的な訓練を行って行きたい。	※	消防署に協力して貰い、研修を計画している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 利用者の搬送区分を行っている。年2回は避難訓練を実施している。火災報知機設置済み。電化住宅マッチは保管場所を決めている。 (外部評価) 災害を想定した実践的な訓練を年2回実施しており、緊急連絡網やマニュアルも電話のそばに配置している。管理者は近隣の応援も得られると確信している。		避難計画を立てている。防火管理者を配置している。管理者も甲種防火管理講習を受けている。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の可能性が高い方には介助者が出来るだけ側にいるように心掛けている。利用者のADLの観察を行ない、事前に事故を防ぐよう心掛けている。		日頃からご家族に事故の起こる可能性については同意を得ているつもりだが、今後も未然に事故を防いで行きたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) ほとんどの利用者がリビングで過ごされるので、体調の変化は、細やかに観察できる。協力病院も目の前にあり、すぐ受診したり、アドバイス貰える環境である。		利用者の疾患によって血圧を測る回数を変更している。変化がある場合は、随時主治医に報告している。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日頃服薬している薬が分かり易いように一覧表を作成している。協力医療機関にお願いして、ワンバック詰めしてもらい、名前も大きく見易くして誤薬の起こり難いように工夫している。		薬の内容が変わった場合は、きちんと申し送りをしている。薬の事典を用意している。薬剤情報をファイリングしている。屯用で内服する薬も、一覧表にしている。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便のチェックは毎日行っており、便秘予防のために、食物繊維が多く摂れるような献立を考え、必要な方には、食物繊維入りのお茶をすすめたりして自然な排便が出来るように工夫している。		排便は毎日確認し、便秘が予想される場合は、水分の摂取を多めにとって頂いてる。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後歯磨きや義歯の手入れを行っている。週に1回以上は洗浄剤で義歯を綺麗にしている。清潔が保たれている為か、風邪にかかる利用者が少ない。		協力医療機関に必要時は訪問してもらいアドバイスを受けている
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取利用は毎回記載している。体調が悪く、細かな摂取利用が必要な場合は介護記録に記入したり水分出納表を作る対応をしている。 (外部評価) 母体法人の管理栄養士の協力のもと、利用者一人ひとりの栄養アセスメントを行い、個別に対応できるシステムになっている。糖尿病の方、脱水を起こしやすい方等、それぞれに丁寧な支援が行われている。		個々の栄養アセスメントを管理栄養士と作成し、定期的な検診時にデーターをチェックしたり、栄養補助食品を紹介して貰ったり、体重をチェックしたりしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 同法人内と感染対策委員会を設置し参加している。日頃より、ペーパータオルの使用。トイレ介助時の使い捨て手袋の着用を実行している。手洗い時に使用する薬剤も医師と相談し決めている。		感染予防に対するマニュアル作成。物品の消毒方法を統一し、感染予防に努めている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器洗浄機を毎食後利用している。まな板・布巾の消毒をその都度行っている。食べ残しは作らないように工夫し、残った場合は毎回処分している。		食材も生ものは業者に毎日配達して貰っている。定期的に冷蔵庫の点検・食材の賞味期間の確認を行っている。研修も参加している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 明るい雰囲気ができるように、利用者と生けた花を飾ったり、近況が分る写真を展示したりしている。		グループホームのパンフレットを持ち帰れるようにして置いたり、掲示板等を設置している。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に光が入りすぎるので、ロールスクリーンを設置する等配慮している。お好きな方には、居室には生花を飾ったり、絵を飾ったり、している。 (外部評価) 共用空間は少々狭いように感じるが、利用者にとっては安心できる空間のようである。利用者はそれぞれ自分のスペースを持ち、譲り合いながら、笑い声が絶えず聞こえた。		清潔な環境が保てるように、掃除・環境整備を行っている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにテレビ・ソファなどを設置したり、廊下にベンチを置いたり、ゆったりと過ごして頂ける様に工夫しているが場所が狭く、全員一度にくつろぐと言うのは難しい為時間帯をずらして利用して頂く等の工夫をしている。		ベランダに喫煙場所を設置している。喫煙しない方にも分煙する事で対応している。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時から使い慣れた物を、持って来て頂く様に家族にお願いしている。若い頃のお写真や家族の写真外出した時の写真等を飾ったりしている。 (外部評価) 本人・家族と相談しながら、仏壇・神棚・使い慣れた筆筒、家族の写真等の持込があった。開設1年半で、各居室に個性が出てきている。		利用者によっては、神棚・仏壇などを置いている方や時代劇が好きな方は、ケーブルテレビを契約されている方もいらっしゃる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各居室・トイレには換気扇・換気口が設置されている。食堂には温度・湿度計を置き快適な温度が保てるように配慮している。		各居室にはエアコンを設置している。リビングには加湿器を置き調整している。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 2階にあるため、浴槽・流し台の高さが、若干高めになっている。開設一年半を向かえ、利用者・職員共に工夫し、機械浴を利用していた方が、一般浴を利用できるまでになった。		生活リハビリにより、筋力のアップが認められ、要介護5の方が、要介護4になり、職員は嬉しかった。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が不安な方に、表札を作ったり、利用者の背丈に応じた、サインを工夫している。		妄想などの原因にならないように、整頓し見やすくする工夫をしている。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダに喫煙コーナーを設けている。毎日布団を干したり、プランターに花を植える等の活用をしている。		今後も有効な活用方法を検討して行きたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の声に出来るだけ耳を傾け、希望をお伺いした時に、時間をなるべくおさずに対応できていると思うので。職員の方からも、利用者の意向を伺う機会を多く設け、希望があれば、管理者に報告できる体制が出来ている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	自室から出れば職員の姿が目に入るような構造になっており、一日の流れも、利用者のペースに合わせて調整している。昔の生活のや家族の話など全職員が利用者の生きがいに關心を寄せ、思いを引き出そうと対応している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりのペースを大切にし、その気になって貰えるのを待っている。納得を得る工夫をし楽しく意欲の出る生活を目指している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者・職員共に笑顔が多い。要介護認定5の方で、意志の疎通が難しく、以前は「アー」「エー」等の単語しか発語しか見られなかった方が「どこ行くの」「あんたお待ち」等言葉を発する機会が多くなったと家族の方に言ってもらえた。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の人員配置が多いので、利用者の希望にほぼ添えていると思う。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者のほぼ全員が体調が良く、定期的な検診や、適切な治療を受けられている。受診した結果は、ご家族にその都度報告している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望には出来るだけ適切な対応をしているが、「夜間部屋で喫煙したい」等対応が難しい場合は、説明を丁寧に行ない、納得を得るように気をつけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	遠方に暮らす家族には定期的に電話連絡をしたりしているが、利用者の寂しさを思うともっと積極的な対応が良いのか試行錯誤する事もある。介護困難を体験した家族は利用者の受け入れが辛く感じておられる方もおり、グループホームを利用される事で、家族関係をよりよくして行きたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	グループホームに入所される事を、自ら知人にお知らせしている方も多くなり、頻繁に友人が来所されている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	現在までに5回運営推進会議を開催しているが、地域との交流も徐々に増えている、今後もいろいろな活動を通して地域に密着した活動を行って行きたい。
98	職員は、生き活きと働けている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の悩み・要望は他の職員や管理者が話を聴き解決に努めている。職員間では「自分の意見を皆か受け止め、相談し易い。」という意見が多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「ここで死にたいので最後まで面倒見てね。」「2日間の入院やったけど、なないろが恋しかった。」と言って下さる利用者が多い。今後も、満足していただける介護を提供して行きたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	なないろに面会に来るのが楽しみだと定期的に面会に来て下さる家族の方が多い。「安心して仕事に行ける。」「母の心配をせず、夜、安心して眠れる。」と言って下さる方が多い。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

グループホームなないろの理念は「住み慣れた町で、安心して、楽しく、生きがいを感じる生活を支援して行きます。」です。訪問された方が「楽しそうな笑い声が聞こえてきました。」と良く言って下さいます。利用者は、もともと、立花地域に住んで居られた方が多く、顔なじみの方々が訪問して下さるグループホームです。協力病院が目の前にあり、医療面でのサポートも充実しています。職員の配置も多く、きめ細やかな介護を目指しています。開設1年半を迎え、ますます張り切り、利用者の個別性を重視した、皆さんに喜んで頂けるグループホームを目指しております。